

フードバンク広がる予感

在庫・規格外食品 困っている人に

品揃え問題がないのに需要の不備、在庫過剰、返品などで売れ残った食品を集め、食事に困っている人に配る。米国の盛況で、国内でも東京や関西で行われてきた「フードバンク」活動が、全国に広がる兆しを見せている。活動を紹介する本記事は、福島の食料支援活動に焦点を当てている。

福島市のNPO法人「あいあいねっと」は今年2月に発足。6月から本格的にフードバンク活動を始めた。従来の田手シメや重箱のほかに、食料支援も併用して取り組む。食料支援を企業にも呼びかけ、福島の野菜を企業にも活用してもらう。身体障害者の井田正樹は「フードバンクは、困っている人に食料を届けてくれる。ありがたい」と話す。

福島市のNPO法人「あいあいねっと」は今年2月に発足。6月から本格的にフードバンク活動を始めた。従来の田手シメや重箱のほかに、食料支援も併用して取り組む。食料支援を企業にも呼びかけ、福島の野菜を企業にも活用してもらう。身体障害者の井田正樹は「フードバンクは、困っている人に食料を届けてくれる。ありがたい」と話す。



「あいあいねっと」に届けられたニンジン、とうがん、カボチャなどのカット野菜＝福島市安佐北区

- 各団体の連絡先
(ホームページ、電話、メール)
- あいあいねっと
http://www.enjoy.ne.jp/~aiainet/
 - フードバンク沖縄
http://foodbankokinawa.ti-da.net/
 - セカンドハーベスト・ジャパン
03-3838-3827、info@2hj.org
 - セカンドハーベスト名古屋
052-913-2810

全国で年350ト配るNPOも

「フードバンク」の活動は、福島市だけでなく、全国に広がっている。東京都のNPO法人「セカンドハーベスト・ジャパン」(以下「セハ」)は、7、8月に、札幌、名古屋、大阪、福岡など全国5カ所で行って活動を始めた。02年に発足し、年間約1000トの食料を首都圏に届け、年間約1000トの食料を首都圏に届けてきた。「セハ」は、食料を届けるだけでなく、ネットワークを構築するために、日々事務局の和村裕子(以下「和村」)は、食料支援を必要とする人の相談の場をセハに設け、ボランティアを募集している。セハは、食料支援を必要とする人の相談の場をセハに設け、ボランティアを募集している。

50万ト超 毎年廃棄
農林水産省の推計によると、日本では食料で約100万トの食料が、5-10%の割合で廃棄されている。これは、約100万トの食料が、5-10%の割合で廃棄されている。これは、約100万トの食料が、5-10%の割合で廃棄されている。

無を求めたい。備蓄倉庫の確保や平日に勤めるスタッフが少ないという課題もある。一歩一歩進んでいきたい」と話している。